

## 1人1台の端末は令和の学びの「スタンダード」②

「皆さんは『ギガスクール構想』ってご存じでしょうか」と書き出した10月の学校便りの続編です。ギガスクール構想とは、何年かかけて義務教育を受ける児童生徒のために、1人1台の学習者用パソコンと高速ネットワーク環境などを整備しようとする計画でした。しかし、新型コロナの影響で学校に通えない子どもたちが多くいたという経緯もあり、今年度の国の補正予算により、この構想の前倒しが進められ今年度末ですべて整備されることをお知らせしたところです。

羽合小学校にも2月25日に、580台のタブレットが学校に届きました。届いたからすぐに配るといふわけにはいきませんが、新年度の4月からは、1年生から6年生まで全ての子どもたちが1人1台の端末機を学校の学習で使うこととなります。また、多くのタブレットを一度に使うことができるように、Wi-Fi等の環境整備工事も終わっています。タブレットを保管しておく収納ボックスも各学年のスペースに設置がすでに行われました。このようにハード面の準備は着々と進んでいます。

この事業には、またコロナや災害等で学校に登校できなくなった場合にオンラインの授業はできないか、その先にはタブレットを自宅に持ち帰り、全ての子どもたちに宿題や自分の自主学习に活用できないかが考えられています。

世界の国を対象にしたある調査によると、PCなどの端末を学習や宿題に活用しているのは、日本は0.2%と最下位で、個人のゲームとして使っているのが世界で最高だそうです。端末はゲームをするもので学習に使うものではないという日本の現状を変えたい、世界のスタンダードに近づけたいという国の考えがそこにはあるようです。

一方で、先生方は大変です。タブレットをどのように使うのか、毎週短い時間ですが研修をしています。一人一台配られる端末を有効に活用できなければ、タブレットはただの箱になってしまいます。教師側の視点として授業などにどのように有効に使うのか、また子どもたちの視点として自分に合った学習や、もっと知りたいという学習にどのように活用するのかを考えているところです。

1年から6年生までの子どもたちに配られるタブレットの中に、羽合小学校は算数のデジタル教科書が入る予定です。今は教師用のものを子どもたちに提示していますが、来年からは自分でそれを操作しながら学習できるようになります。当面は従来の本の教科書もありますが併用することになります。

また、使い方のルールや、タブレットがもし壊れた時にはどうするのかなど詰めていかなくてはいけない課題もあります。保護者の方にとって不安もあると思います。家でもゲームをしたりYouTubeを見たりして注意をしているのに、学校でも毎日タブレットを使って大丈夫かと思われる方もあるかもしれません。そういった心配もありますが、学校の授業スタイルが大きく変わる、学校の教育が変わる節目の年になるのは確かです。

